平成25年度東海三県へき地医療研究会アンケート結果

○研究会参加者：37名

(県別)三重県：8名、愛知県5名、岐阜県24名

(職種別)医師22名、看護師1名、ＳＷ1名、事務10名、医学生1名、一般1名、記者1名

○アンケート結果

全体：23名/37名(回収率62.2%)

(内訳)医療関係者 19名/24名、事務・一般 4名/11名、その他 0名/2名

(1)研究会の満足度(100を満点として計算)

①参加者全体

②職種別

(2)コメント

①第一部：各県発表

時間がなくて質問ができなかった。

地域医療の現場・現状を知ることができた。

②第二部：ワールドカフェ

初めてワールドカフェに参加したが、合理的に意見を共有できるツールで良かった。

地域の課題や自分の課題について話し合い、話が膨らみ楽しく有意義だった。看護師参加が少しでも増えるとよい。

楽しく参加できた。

テーマの解釈が難しく、開始に少しとまどった。

課題に沿って、また解決法とはいかなくても、話すだけで役立つことやヒントがたくさんあった。

他職種のディスカッションをきっかけに各県でこのような情報共有の会を開けると良い。

普段話すことがない内容を、他職種の方と話すことができて勉強になった。

色々な立場の方々の話が聞けて良かった。

③全体の感想・今後の研究会に期待すること

ワールドカフェなどディスカッションができるとよい。

学生を動員させるとよい。

三県で集まる意味はいろいろな地域の課題を知ることから始まる。課題が地域それぞれなので、解決法も一通りではないが、それを分かることが大切。

「研究」に対する連携・サポートがあると良い。

後期研修以降の人材・へき地医療への導入の仕組み作りについて、誰にとっての課題解決の場にするか検討必要。

ワールドカフェは楽しく話し合うことができ、とても良かった。

様々な立場の方と色々と共有ができて良かった。様々な問題について、他職種間での共有ができると良い。

実りの多い会だった。

グループワーク（ワールドカフェ）での課題の解決。

それぞれの立場での話を出せる雰囲気が良かった。